



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただければと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、交流しながら「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月。9名のメンバーで発足。

2004・2005年9月の神通研集会・第1分科会「サークル」を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2005年10月現在、川崎4、横浜3、県域10、神聴連1、計18名で活動中。

## ～ 定例会 ～

地域サークルの様子や情報交換等を行っています。

10/23 定例会報告

聴覚障害者老人ホーム募金について、地域サークルの情報交換を行いました。老人ホームの必要性は感じているものの、募金額が高額なため、身近なものとは捉えにくいようです。多くの人たちに理解を広げていくためには、情報不足かもしれません。

神通研集会報告書の最終チェックをしました。集会助言者・黒崎さんのお話はわかりやすくサークルにぜひ伝えたい内容でした。

11/27 は、川聴協主催の福祉講座「サークルってなあに？」におじゃまします。

【次回定例会】

11月27(日) 11:30～13:00

ジョナサン・武蔵小杉店

どなたでもお気軽にご参加下さい。

## ～ '05年神通研集会 第1分科会報告～

S20～40年頃まで手話は「手まね」という言葉で表され、言語ではないと思われていました。ろう者の基本的な人権を主張していくために手話を広めていく運動が広がり、S45年から開始された手話奉仕員養成事業をきっかけに手話が飛躍的に広まりました。

でも、ろう者にとって運転免許取得時の適性検査、文字情報の不足等、まだまだ様々な問題に直面しています。手話を学びながら、地域の仲間としてサークルに出来ることは何か？ろう者が抱えている問題や解決方法を理解し合うことが大切です。

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

サークル班に参加して2年目、問題解決の光がなかなか見えません。気長に少しずつかな？

先日サークル行事の一泊研修で松本方面へ70歳以上の聾者も数人参加みな足も達者で元気！

観光名所よりも手話手話手話でおしゃべりが止まらない。楽しかった！

やっぱりサークルの仲間っていいよね。

行事や活動に参加することが大切。

日常の何気ないことでも続けることでよい結果がでると思います。

ペンネーム・フェイフェイ